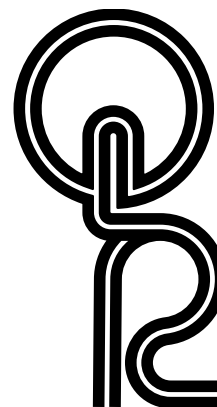


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 14 No.3, 2007



第12回講習会「貝化石群集を用いた古環境の復元法」にて、遊水地の露頭で貝化石の説明を受ける参加者(2007.3.10 田口公則撮影)

Vol. 14 No. 3

June 1, 2007

2007年大会案内(第3報)..... 2	地質年代の第四紀の格づけについて..... 10
研究委員会の公募..... 4	50周年事業に関わる募金のお願いと御礼..... 11
大会会場案内..... 5	選挙管理委員会・幹事会議事録..... 13
50周年記念展示と特別展の案内..... 6	会員消息..... 15
粘土科学討論会の案内..... 7	
第四紀学会講習会報告..... 8	
ネオテクトニクス研究委員会野外集会の案内..... 9	

日本第四紀学会2007年大会案内(第3報)

大会の概要

日本第四紀学会2007年大会は以下の予定で開催されますので、多数の皆さんのご参加をお願いいたします。

1. 日時・開催場所：2007年8月31日(金)～9月2日(日)
神戸大学百年記念館(兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1)
<http://www.kobe-u.ac.jp/>

2. 日程

8月31日	一般研究発表(口頭およびポスター)・評議員会
9月1日	一般研究発表(口頭およびポスター)・総会・懇親会、 普及講演会(神戸大学瀧川記念学術交流会館)
9月2日	シンポジウム
9月3日～4日	巡検

3. 発表の申し込み締め切り

前号でお知らせしましたとおり、一般研究発表(口頭およびポスター)の申し込み締め切りは2007年6月15日(金)となっています。前号の「一般研究発表の申し込み」、「講演要旨の原稿の書き方」を参照の上、講演要旨原稿と共に期限までにお申し込みください。

シンポジウム・巡検・普及講演会

4. シンポジウム「瀬戸内海の変遷 - 自然、環境、人」

このシンポジウムは、日本第四紀学会・神戸大学内海域環境教育研究センターの共催、兵庫県立人と自然の博物館の協力のもとで行われます。

日時：2007年9月2日

会場：神戸大学百年記念館 六甲ホール

世話人：兵頭政幸(神戸大)・加藤茂弘(人と自然博)・松下まり子(奈文研)

シンポジウム「瀬戸内海の変遷 - 自然、環境、人」

9:00～9:05 趣旨説明 兵頭政幸(神戸大)

S1 9:05～9:35 瀬戸内海周辺の「第一瀬戸内累層群」の年代と古環境
松原尚志(兵庫県立人と自然の博物館)

S2 9:35～10:05 瀬戸内海とその周辺の活断層

加藤茂弘(人と自然博)・岡田篤正(立命館大)・寒川 旭(産総研)

S3 10:05～10:35 大阪平野西大阪地域における沖積層の形成年代と堆積速度

三田村宗樹・塚田 豊・吉川周作(大阪市立大学)・笹尾英嗣(日本原子力研究開発機構)

休憩(10:35～10:50)

S4 10:50～11:20 西南日本に沈み込むフィリピン海プレートの形状とテクトニックな意義
三好崇之・石橋克彦(神戸大)

S4 11:20～11:50 第四紀の瀬戸内海周辺の古植生とフロラの変遷

百原 新(千葉大)

S5 11:50～12:20 瀬戸内海東部の相対的海水準変動 - 完新世を中心に -
佐藤裕司(兵庫県立大)

昼食(12:20～13:30)

S6 13:30～14:00 縄文海進と先史遺跡群の動向 - 中部瀬戸内を中心に -
田嶋正憲(岡山市埋蔵文化財センター)

S7 14:00～14:30 瀬戸内海の家砂問題と環境地質学の役割

井内美郎(早稲田大学)

休憩(14:30～14:40)

- S8 14:40 ~ 15:00 大阪湾海底堆積物の磁氣的性質 - 古環境解析の基礎として
三島稔明・寺井 誠・兵頭政幸(神戸大学)
- S9 15:00 ~ 15:20 有孔虫化石に基づく大阪湾の底生生態系人為改変史の解読
辻本 彰(大阪市大)・安原盛明(USGS)・野村律夫(島根大)・山崎秀夫(近畿大)・廣瀬孝太郎(大阪市大)・吉川周作(大阪市大)
- S10 15:20 ~ 15:40 大阪湾における過去約200年間の珪藻群集の時空変化：都市化に伴う富栄養化と沿岸埋立の影響
廣瀬孝太郎(大阪市大)・安原盛明(USGS)・山崎秀夫(近畿大)・辻本 彰(大阪市大)・吉川周作(大阪市大)
- 総合討論(15:40 ~ 16:10)

5. 巡検

9月3日(月)~4日(火)に1泊2日で行われます。申し込み締め切りは8月11日(土)です。満席になり次第、受付終了しますので、早めにお申し込みください。

巡検：「淡路島と東播磨平野の大阪層群および高位段丘層と活断層地形」

淡路島と東播磨平野に分布する大阪層群や高位段丘層とその火山灰層、これらの地層からなる丘陵や段丘地形、野島断層や琵琶甲断層の変位地形や断層露頭などを観察し、考古遺跡や野島断層保存館を訪れて第四紀の自然・文化遺産の保存と活用について考えます。

日程：2007年9月3日(月)・4日(火) 1泊2日

案内者：加藤茂弘・兵頭政幸・佐藤裕司ほか

巡検の概要と日程(予定)：

9月3日(月)8:30 神戸大学理学部ロタリー集合、バスにて淡路島に向かう
・洲本市五色町周辺(淡路島の大阪層群と後期鮮新世テフラ,化石含有層など)
・淡路市小倉周辺(野島断層保存館,北淡震災記念公園周辺の大阪層群と断層露頭)
・淡路市平林~岩屋(野島断層の変位地形と兵庫県南部地震の地震断層崖)
明石海峡大橋を渡って東播磨平野北部、加西市の宿泊地に移動
宿泊：料理旅館「松鶴楼」〒679-0105 兵庫県加西市朝妻町122-34
TEL 0790-47-0030(代)

9月4日(火)8:30 宿舎(松鶴楼)発
・加西市周辺(琵琶甲断層の変位地形と断層露頭、加古川の河岸段丘地形など)
・加古川市都台(Ma11(2)層に相当するMIS7.3海成層と加古川火山灰)
・播磨大中遺跡(弥生時代中期~古墳時代中期)と播磨町郷土資料館
・神戸市西区(Ma9層に相当するMIS11海成層と高塚山火山灰)

17:00頃にJR三宮駅前、JR新神戸駅に順次到着、解散予定。

天候・交通事情等により若干の変更がありえることをご承知ください。

募集人員：20名(中型バス使用) 15名未満の場合は中止

参加費：15000円(1泊2食宿泊費 ¥6825,貸切小型バス代、高速代、資料代等を含む)

申し込み方法：

参加希望者は、ハガキ、FAX、またはE-mailにて、氏名・所属・連絡先(住所・電話・E-mailアドレス)、定員オーバーの場合のキャンセル待ち希望の有無を明記し、下記の宛先に申込みください。先着順に受付、電話での申込みは受付しません。受付後に個別に案内等を送付します。参加の確認と参加費の徴収および巡検資料の受け渡しは、学会期間中に巡検コーナーを設けて行う予定です。巡検のみ参加される方は、その旨をお書き添えください。

申し込み先：

〒669-1546 兵庫県三田市弥生ヶ丘6丁目
兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境評価研究部 加藤茂弘
TEL&FAX 079-559-2017 E-mail:katochan@hitohaku.jp
申し込み締め切り：8月11日(土) 満席になり次第、終了します。

6. 普及講演会「大地の変動と地震・津波」

この普及講演会は一般市民を対象として、日本第四紀学会・神戸大学都市安全研究センター・神戸大学内海域環境教育研究センターの共催、兵庫県立人と自然の博物館の協力のも

とで下記の通り行われます。

普及講演会：大地の変動と地震・津波

日時：2007年9月1日（土）13：00～17：00

会場：神戸大学瀧川記念学術交流会館

世話人：兵頭政幸（神戸大学・内海域環境教育研究センター）

13：00～13：30 受付

13：30～13：40 開会挨拶 実行委員長

13：40～14：40 岡田篤正（立命館大学教授）「西日本の活断層」

14：40～15：40 石橋克彦（神戸大学教授）「南海巨大地震と私たちの暮らし」

休憩（10分）

15：50～16：50 藤原 治（産業技術総合研究所・活断層研究センター研究員）
「津波堆積物が示す地震の規模と周期」

16：50～17：00 閉会挨拶 日本第四紀学会会長

7. 大会実行委員会

実行委員会委員長 石橋克彦

連絡先：実行委員会事務局長 兵頭政幸

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

神戸大学 内海域環境教育研究センター

E-mail：mhyodo@kobe-u.ac.jp

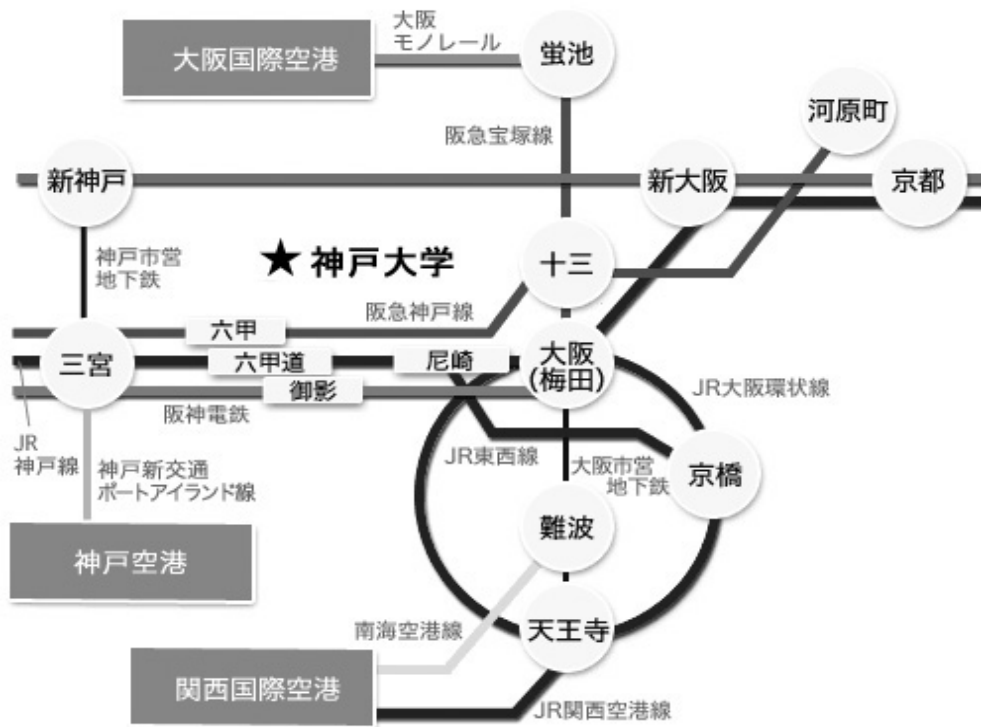
Tel：078-803-5734 Fax：078-803-5757

* 宿泊：前号にホテル一覧の案内を付しましたので、お早めに予約されるようお願いいたします。

研究委員会の公募について

日本第四紀学会では、国際第四紀学連合INQUAのCommissionに対応した日本国内の活動を支援するため研究委員会を設置しています。通例、6月に公募を行い8月の評議員会で審議され、承認された研究委員会は8月から活動が行われています。しかし今年は、7月末から8月上旬にオーストラリアのケアンズで第17回のINQUA大会が開催され、そこで今後4年間のCommission体制が確定されることから、INQUA大会後の10月に公募を行い、来年1-2月の評議員会で審議することになりました。今年8月からの半年間については学会からの援助ができませんが、ご理解のほどお願い致します。また10月の公募に向けて、各commissionに対応した国内での活動の準備をお願い致します。

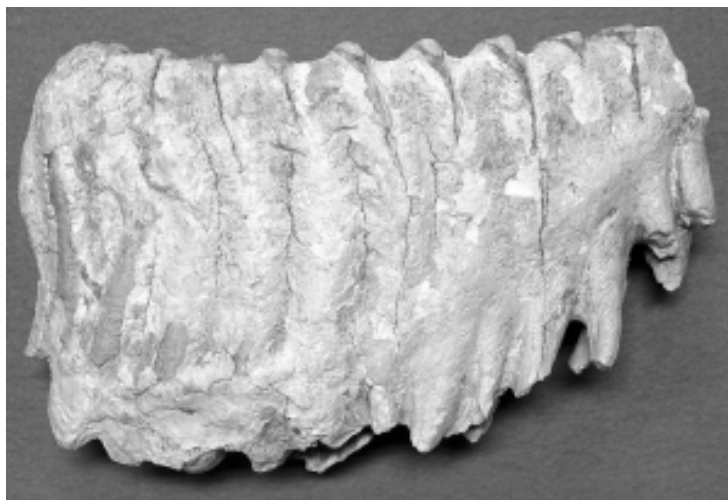
神戸大学へのアクセスマップ



百年記念館周辺案内図



日本第四紀学会50周年記念展示と青森県立郷土館特別展



青森県東通村尻産ナウマンゾウ左下顎第三大白歯（歯冠長：271mm）

50周年記念事業実行委員会では、本学会の50周年を記念して、学会の活動を紹介する展示を豊橋市自然史博物館（開催期間：2006年7月14日～10月9日）、兵庫県立人と自然の博物館（同年9月9日～11月5日）、産業技術総合研究所地質標本館（同年10月3日～11月12日）で行なってきたほか、大阪市立自然史博物館でも追加の展示（同年12月1日～2007年1月31日）、さらに千葉県立中央博物館（2007年3月3日～5月27日）で行われてきました。これらの展示は、学会のこれまでの歩みや現在の姿、あるいは今後の展望など学会活動全般について、より多くの会員の皆様や、より多くの一般の方々に知っていただくのが目的です。

今回は、青森県立郷土館で開催される特別展「北東北自然史博物館 - 大地と生きものふしぎ旅行 - 」の会場で、この展示を行なうことになりました。

青森県立郷土館の特別展は、青森・秋田・岩手の北東北三県が協同で開催するもので、三県の収蔵資料を持ち寄って展示し、北東北の地史や生物相について紹介します。これは三県を巡回しますが、本学会を紹介する展示は青森会場でのみ行なわれます。なお、当館の詳細についてはホームページ(<http://www.pref.lg.jp/kyodokan/>)をご覧ください。

展示場所：青森県立郷土館

住 所：青森市本町二丁目8 - 14（JR青森駅から徒歩約20分）

電 話：017-777-1585

開催期間：2007年6月9日（土）～7月16日（月）

入 館 料：特別展＋常設展：500円（一般）、240円（高校・大学生）、中学生以下は無料
常設展のみ：310円（一般）、150円（高校・大学生）、中学生以下は無料

開館時間：9：00～18：00

休 館 日：この期間中にはありません

第51回粘土科学討論会のご案内

主催：日本粘土学会

共催：資源・素材学会，資源地質学会，ゼオライト学会，地盤工学会，日本化学会，日本火山学会，日本岩石鉱物鉱床学会，日本鉱物学会，日本セラミックス協会，日本セラミックス協会原料部会，日本第四紀学会，日本地学教育学会，日本地球化学会，日本地質学会，日本土壌肥料学会，日本熱測定学会，日本ペドロジー学会，農業土木学会(予定，50音順)

会期：2007年9月12日(水)～14日(金)

会場：北海道大学学術交流会館

〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目，TEL. 011-706-2141(会館事務室)

日程：

9月12日(水) 口頭発表/特別講演/シンポジウム/懇親会

9月13日(木) 口頭発表/ポスター展示/ポスター討論/口頭発表

9月14日(金) 見学会

講演：

A. 一般講演(口頭発表，ポスター発表)

B. 特別講演 渡辺義公氏(北大院・工，北大21世紀COEプログラム拠点リーダー)(予定)

C. シンポジウム

一般講演の申込方法：

日本粘土学会ホームページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/cssj2/index.html>)からお申込みください。講演ごとに1通の参加申し込みフォームをお送りください。講演概要はプログラム編成に使用いたしますが，合わせて日本粘土学会ホームページに討論会プログラムとともに公表しますこと，ご了承ください。なお，発表者の内1名は本学会会員であることが必要です。Webページが使えない場合は，下記あてお問い合わせ下さい。

申込開始：2007年5月22日(火)12:00～

申込締切：2007年6月19日(火)必着です。Webページからの申込の場合は確認のための返信をいたしますので，返信がない場合は再度ご連絡をお願いいたします。

参加登録料：会員(共催学会員を含む)3,000円，学生会員1,000円，非会員5,000円

講演要旨集代：3,000円

講演要旨締切：2007年7月20日(金)必着

懇親会：9月12日(水)18:30～ 札幌アスペンホテル(札幌市北区北8条西4丁目5番地)

会費：一般6,000円，学生3,000円「粘土科学 第46巻第2号」に添付する参加申し込みフォーム，または官製はがきに参加者氏名・所属を記入して，下記申込先にお送り下さい。

見学会：9月14日(金) 目的地：豊羽鉱山および洞爺湖周辺(予定) 会費：未定「粘土科学 第46巻第2号」に添付する参加申し込みフォーム，または官製はがきに参加者氏名・所属を記入して，下記申込先にお送り下さい。

問い合わせ，講演・懇親会申込先，講演要旨送付先：

〒060-8628 札幌市北区北13条西8丁目

北海道大学大学院工学研究科 環境循環システム専攻地圏循環工学講座内

第51回粘土科学討論会実行委員会 米田哲朗

TEL & FAX：011-706-6305

電子メールアドレス：ami@eng.hokudai.ac.jp

日本第四紀学会第12回講習会

「貝化石群集を用いた古環境の復元法」(2007年3月10日～11日)報告

<実施報告>

初日は、横浜市泉区下飯田町の「県立境川遊水地公園」の工事現場にて露頭観察及び貝化石の採集。神奈川県藤沢土木事務所の協力により工事現場での講習会が実現した。現地では、下末吉相当層となる藤沢泥層とそれを被う俣野礫層が露出する。今回の露頭は2007年2月の掘削により新たに現れた貝化石密集層である。講習会では、露頭観察に加え貝化石の採集を行った。

参加者は土木事務所から借用したヘルメットをかぶり、1時間半かけて各自が貝化石採集。法面の露頭だけでなく、現場の床面自体に貝化石の密集層が露出するという好条件。ハンマーやねじり鎌等にて露頭表面を削り、あるいは手で直接貝を採集し、短時間で保存のよい貝化石を多量に採集した。貝化石密集層が露出する法面と床面では、資料収集方法として田口が実際に地層の剥ぎ取りを実施した。剥ぎ取りの手順は、特殊な樹脂(トマック NS10)を露頭面に塗り、グラスウールで裏打ちを施し、樹脂が硬化した2時間後に露頭から剥離するというもの。持ち運びを考慮したコンテナサイズのよい

資料が得られた。

2日目は、神奈川県立生命の星・地球博物館の実習室を会場に講習会を実施。100円ショップで揃えたフルイ、ピンセット、細筆などを用いて、工事現場で採集した貝化石の水洗と種類分け作業を実施。主な貝化石をデジカメで撮影し、午後その画像を紹介解説し同定を行った。また、2004年度に開催した企画展「+2の世界～縄文時代からみた地球温暖化」のワークテキストを配付資料とし、松島が縄文海進に伴う内湾～沿岸における貝類群集について、そして今回露出した下末吉海進最盛期の内湾および沿岸混合群集について解説を行った。

参加者それぞれが採集した貝化石を標本にすることができたことが一番の成果である。しかも下末吉期からみつかった熱帯種のタイワンシラトリを多くの参加者が採集された。貴重な標本として大切に保存していただくことを望む。

田口公則・松島義章
(神奈川県立生命の星・地球博物館)



地層の剥ぎ取り作業(裏打ち処置後)



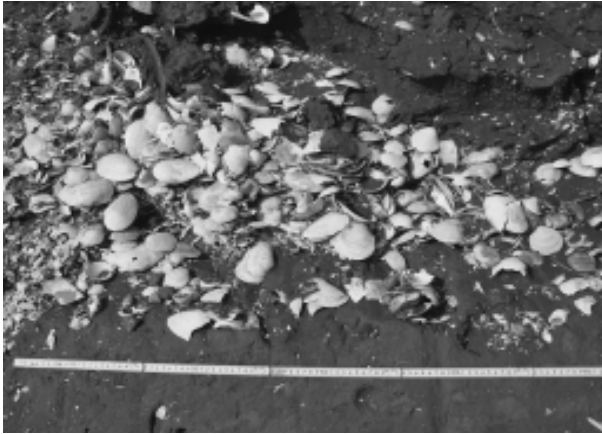
完成した貝化石密集層の剥ぎ取り

<参加報告>

日本第四紀学会第12回講習会「貝化石群集を用いた古環境復元法」が3月10・11日の二日間、神奈川県横浜市下飯田遊水地付近および神奈川県立生命の星・地球博物館で行われた。講師は松島義章氏・田口公則氏(神奈川県立生命の星・地球博物館)が担当され14名が参加した。

一日目は横浜市下飯田に所在する現在工事中の境川遊水地において、下末吉相当層の観察を行った。当地は工事の法面に露頭が現れてお

り、上位を境川の段丘礫層(俣野礫層)に不整合に覆われた、藤沢泥層と呼ばれる下末吉相当層を観察し、貝化石の採取を行うことができた。下末吉相当層はシルト・砂層からなり、若干傾斜をもちながら側方へ連続した貝殻密集層が3枚程度存在した。貝殻密集層はウラカガミなどの貝殻を多数含むものであったが、その殆どが離弁した異地性の産状を示しており、大きな波浪等のイベントによって生じた可能性が考えられるものであった。その後周辺の観察も行った



横浜市泉区の境川遊水池工事に伴い出現した下末吉相当層（藤沢泥層）に見られる貝化石密集層（松島義章氏撮影）



博物館の実習室にて採集した貝化石資料の水洗作業をすすめる参加者（松島義章氏撮影）

が、当日の貝採取地点より下流500mの地点ではより下位の層に自生の産状(合弁直立姿勢)を示すウラカガミを含むシルト質砂層があり、更に最下部にはマガキを含む砂礫層があるとの説明を受け、下末吉海進期堆積層の多様性を理解することができた。

二日目は神奈川県立生命の星・地球博物館において、前日に採取した貝化石のクリーニングと貝化石の同定を行った。同定の結果、採取した貝は20余種類以上あった。そのうち主要なものをあげれば、アカガイの仲間(サルボウ・アカガイ等)・カガミガイ・ウラカガミ・マテガイ・スダレガイ・オオノガイ・キヌタアゲマキ・キサゴ・バイ・ツメタガイ・コロモガイ・コゲチャタケノコガイ・ツノガイ等が存在した。生息環境から見ると、ウラカガミ・アカガイ・イヨスダレ・トリガイ等内湾泥底に棲息するものが多くある一方、イタヤガイ・マツヤマウスレ・ヤ

ツシロガイ等湾口付近の水深がやや深い砂泥底に棲息するものなどもあり、複数の異なる棲息環境に棲む貝類が混在していることがわかった。また熱帯種であるタイワンシラトリも含まれており、現在より高い水温の所産であることを知ることができた。最後に貝化石群集から第四紀の日本各地の海域環境の変遷の研究を行ってきた松島氏より古環境復元の方法と下末吉海進・縄文海進時における環境の変遷に関する講義を受け、貝化石による古環境復元の方法を理論的に整理することができた。また個人的にも遺跡（貝塚）の調査ではあまり出土しない貝殻、すなわち食用とされなかった貝類をも含めた生態を知ることができたことはたいへん有意義な講習会であった。

（かながわ考古学財団 松田光太郎）

ネオテクトニクス研究委員会野外集会「能登半島の活断層と海岸隆起」のご案内

ネオテクトニクス研究委員会では、能登半島に分布する活断層と海成段丘の観察を中心とした野外集会を下記の日程で開催致します。周辺地域のテクトニクスや段丘編年などに関心がある方の御参加をお待ちしています。詳細につきましては、今後、下記のウェブサイトを通じて、ご案内させて頂く予定です。

日程（予定）：2007年8月9日（木）～11日（土）＜2泊3日＞

最大定員：30名

申込連絡先：(独)産業技術総合研究所活断層研究センター 吾妻 崇

e-mail: t-azuma@aist.go.jp fax:029-861-3807

ウェブサイト：http://staff.aist.go.jp/t-azuma/QR_Neotec2007.html

地質年代の第四紀の格づけについて(感想)

中川久夫

第18回万国地質学会議(IGC)は1948年にLondonで開催された。前回のIGCは1934年にMoscowであったが、その後各地で戦乱が続き1945年に日本の降伏で平和がよみがえった。IGCは14年ぶり、その間に得られた成果はここに提出された。第四紀の討論会もあり、鮮新統・更新統の境界決定のための勧告案も示された。それは次のようであった。

(1)境界は海棲動物の変化に基づいて定める。(2)境界の模式地を撰ぶ、とくに古くから地質学的に研究されてきたイタリアの海成層の地域から撰ぶ。(3)カラブリア層を更新統下部に含める。同時にヴィラフランカ層を陸成同等層とする。(4)境界は一連の鮮新・更新統のうち、気候の寒冷化を最初に認められる層準におく。

なお、次回のIGCにイタリアの地質学会は境界の候補地を撰んで報告することが要望された。

(4)に相当することとして、アルプスの氷河時代の開始・地中海に寒冷種動物(例 *Cyprina islandica*)の出現・海水準の低下などがあり、また討論会の内容などからは象・馬・牛(とくに近代型種)の出現・人類の誕生などがあげられた。次回のIGCにイタリアの地質学会の報告はなく、1961年にカラブリアのLe Castellaの海崖から得られた有孔虫の殻の同位体の測定から、海水温の寒冷化は急激ではなかったことが報告された。別に生物と人類の種・属の改定・変更があった。

1969年次来筆者はアルプスの氷河時代の堆積物と地形を精査し、Günz氷期の礫層とされていたものは古第三系・新第三系のMolasseの礫層であること、北イタリアの氷河湖とされていた数面の湖は中新世末の礫層に関係あるものであることなどを確かめた。また模式地のヴィラフランカ層はアスチ層に含まれる泥相

で、ヴィラフランカ動物相に含まれた動物種は不確実な対比で一括されていたものであった。また北ドイツの大陸氷床との関係からはRiss-Würm間氷期の海岸段丘がTyrrhenian段丘のようであった。

地中海沿岸の更新統と新第三系の階模式層については地磁気層序と微化石層序の調査を約10年かかって続けた。その間に地区的・世界的な数件の研究計画に組み込まれた。鮮新統・更新統の境界問題は国際対比計画にもとりあげられ(IGCP-41)、1948年の勧告案が主題となった。INQUAには第四紀の格づけに関する作業班もできた。

ある地質時代を当時繁栄していた生物の名で呼ぶことがあるが、第四紀のとくに前半は氷河時代で代表されることが多いが、第四紀の命名者のフランスの学者は氷河とは無関係にパリ盆地の新时期堆積物を含有する化石(実は基盤に由来)ごとに名づけたものであった。第四紀の名は、昔、古生代・中生代を第一紀・第二紀とし、それらに続けて第三紀・第四紀と呼んだものであったという。その辺までさかのぼって、時代名を検討しなおそうとする人たちもあった。いわんや1948年頃の階や層名の不安定さや定義を云々する人たちで百家争鳴の感がある。IGCPとINQUAのグループは南イタリアのVricaの鮮新・更新統の厚い海成層中から当時ここで寒冷種とされていた介形虫の*Cytheropteron testudo*を目安としてその一連の地層中のe基準を境界と定めた。

同じ頃にイタリアのチームはシチリア島の南岸のGelasian Stageを注目すべき所としてあげた。下位にメッシニアン(Messinian)の蒸発残留岩の層準がある。ここを第四紀下限の模式層として確かめようとするなら、また10年あまりかかるかと思う。

50周年事業に関わる募金のお願い

2007年6月1日

日本第四紀学会会員各位

日本第四紀学会 50周年事業に関わる募金の重ねてのお願い

日本第四紀学会 会長 町田 洋
50周年記念事業実行委員会委員長 熊井久雄

日本第四紀学会では2006年4月に創立50周年を迎えました。これを記念して50周年記念事業実行委員会を中心に、記念出版物の刊行、記念式典、記念シンポジウム、国際シンポジウム等の事業を計画・実施しています。

学会財政が非常に厳しい中で、諸行事はできるだけ簡素に、そして受益者負担の原則で実施する所存ですが、日本の第四紀学を世界へ展開させるために、そして、アジア地域の第四紀研究との連携をはかるため、2007年11月20～22日に21世紀にふさわしい国際シンポジウム「アジア・西太平洋の第四紀 - 環境変化と人類 - 」をつくば市で開催の予定です。そしてこれには第四紀学の最前線的话题を提供する外国人キーノートスピーカー3名をはじめ、各セッションでアジア・ヨーロッパ・オセアニアの第四紀研究者を招いてホットな講演をお願いする計画を立てています。

このため国際シンポジウムへの外国人招待を含めた50周年記念事業の実施に必要な資金を得るため、会員の皆様に下記の要領で募金お願いしていますが、多くの方々にご協力頂いたにもかかわらず、現在までの募金額は目標額500万円の67%に留まっています。現在の状況では外国人招待講演者の旅費・宿泊費が十分確保できておりません。募金の趣旨と学会の厳しい財政状況をご拝察の上、日本及び世界の第四紀学発展のために是非この募金活動にご協力賜りますよう、誌上をお借りして重ねてお願い申し上げます。

5月7日現在で募金者301名、総額3,339,000円のご寄付をいただいております。ご協力いただきました皆様には篤く御礼申し上げます。

記

募金目標は500万円です。1口5000円で募金口数、募金回数に制限はありません。

2口(10,000円)以上募金していただいた会員には記念品(第四紀研究全巻を200dpiでPDF化したCD:非売品)を差し上げます。

募金は、郵便振替にて下記の口座にお振り込み下さいますようお願いいたします。

同封した募金専用の振り込み用紙をご利用いただくと送金料が無料になります。

(この用紙は募金以外には使用できません。)

口座記号番号 00120-3-614754

加入者名 日本第四紀学会 50周年記念事業実行委員会

(問い合わせ先)

首都大学東京 都市環境学部 地理学教室 山崎晴雄 (50周年実行委 事務局長)

Tel: 0426-77-2592 Fax: 0426-77-2589

e-mail: yamazaki@tmu.ac.jp

50周年記念事業募金者名簿（募金到着順、敬称略、2007年5月6日現在）

下記の皆様から募金をいただきました。この場をお借りして篤く御礼申し上げます。

日本第四紀学会 50周年記念事業実行委員会

増田耕一、熊井久雄、杉山富雄、三川憲一、金子 稔、水野篤行、松井 健、垣見俊弘、
 亀井裕幸、竹中 純、田中治夫、平井幸弘、古川博恭、千田 昇、大澤 進、松葉千年、
 満岡 孝、中島光世、今泉知也、青木賢人、三島弘幸、鹿島愛彦、桑島 達、鈴木 茂、
 野中俊夫、豊田和広、吉田 義、守田益宗、松橋義隆、木暮 翠、永井節雄、藤森孝俊、
 山崎晴雄、奥村晃史、菅 加世子、櫻尾重信、田辺 晋、勝田和利、東 将士、三田村宗樹、
 石井久夫、田口公則、久保純子、島口 天、井上公夫、辻誠一郎、古内栄一、吉川周作、
 小林武彦、山崎博史、沖津 進、杉村 新、長太伸章、佐藤裕司、荒井 格、植村善博、
 栗山知士、八千代エンジニアリング総業事業本部、半田久美子、黒田登美雄、兵頭政幸、
 能條 歩、田原敬治、小池一之、松浦秀治、北村晃寿、早田 勉、倉林三郎、伊藤ツヨシ、
 井上 弦、藤井昭二、松村 淳、和田温之、松島義章、楡井 尊、斉藤享治、西田和浩、
 飯島義雄、讃岐利夫、高田将志、長内優之、萩原法子、福岡孝昭、藤森雄一、町田 洋、
 水野秀明、上原克人、長友恒人、水野清秀、劔持輝久、池田 晋、山口啓子、浅川一郎、
 松井和夫、廣瀬玉紀、諏訪靖二、坂上寛一、片岡香子、小野弘道、渡邊眞紀子、野川 潔、
 杉山雄一、浅井朋代、松山澄久、上杉 陽、清水恵助、鈴木毅彦、石綿しげ子、原 芳生、
 奥野 充、小泉武栄、長橋良隆、小林忠夫、金沢直人、満岡 孝、陶野郁雄、楮原京子、
 檀原 徹、柏谷健二、真野勝友、星野フサ、会田信行、松下まり子、丹羽俊二、山縣耕太郎、
 遠藤邦彦、細矢卓志、河村善也、中村琢磨、岩田修二、矢島典夫、里口保文、中村俊夫、
 菊地隆男、神嶋利夫、五藤幸晴、幡谷竜太、鈴木郁夫、須藤忠恭、高遠 宏、大村明雄、
 清永丈太、近藤洋一、佐倉 朔、永塚鎮男、桑原拓一郎、佐々木俊法、野村 哲、田中正央、
 羽鳥謙三、大城逸朗、渡辺秀男、堀口萬吉、本郷美佐緒、白井太郎、磯 望、木谷幹一、
 小元久仁夫、犬塚則久、熊木洋太、古谷栄次郎、藤原 治、山田 哲、叶内敦子、神谷千穂、
 黒川勝己、門村 浩、小林 巖、宮脇明子、高野武男、内山美恵子・高、赤羽貞幸、
 笹川一郎、中里裕臣、鈴木正章、小橋拓司、春恒社・中山五男、小野 昭、萩谷千明、
 森江孝志、近藤洋一、西山賢一、山本裕之、池原 研、中川久夫、中川 猛、吉山 昭、
 山本 博、斎藤文紀、鎮西清高、成瀬 洋、池田重人、加藤芳朗、太田陽子、紀藤典夫、
 堀 和明、白石建雄、花岡正光、長岡信治、田中義文、及川輝樹、渡邊眞紀子、公文富士夫、
 北爪智啓、岡本 透、伊藤晶文、貞方 昇、前田保夫、平杜定夫、大場忠道、伊東徳治、
 苅谷愛彦、東郷正美、藤井理恵、菊地隆男、渡辺栄次、野口 淳、佐々木圭一、酒井治孝、
 豊蔵 勇、市川八州夫、百原 新、岡崎浩子、坂本順哉、馬場勝良、後藤秀昭、宇津川 徹、
 杉山真二、渡邊正巳、鈴木隆介、瀬川秀良、植木岳雪、小泉明裕、金 幸隆、
 創文印刷工業（株）、三好教夫、田村糸子、吉永秀一郎、林 和広、吉田明弘、渡辺哲也、
 吉田邦夫、杉田律子、石橋克彦、阪口 豊、菅 香世子、寺平 宏、川本素行、小林 詢、
 渡辺秀男、高瀬克範、松下利秀、加藤幸弘、細野 衛、吉羽興一、武藤 章、松田清孝、
 真鍋健一、新里忠史、竹下欣宏、長谷川正、小松美加、福島和彦、中尾賢一、岡田篤正、
 田村 博、長岡大輔、中村由克、嵯峨山 積、松原彰子、山根幹生、滝口志郎、鳥居雅之、
 邑本順亮、田中俊廣、松井理作、藤岡比呂志、田村俊和、前島勇治、宮崎 隆、久保田郁夫、
 雁沢好博、安川豊史、能城修一、羽鳥謙三、小林健助、兼子尚知、近藤鍊三、三宅 尚、
 田辺晶史、武田裕一、糸魚川淳二、柳 信一郎、小島夏彦

50周年記念Tシャツ購入者

櫻尾重信、坂本隆彦、勝又麻須子、宮内崇裕、高濱信行、早船元峰

以上、301名

（お名前が重複している場合がありますが間違いではありません）

日本第四紀学会第1回選挙管理委員会議事録

日 時：2007年4月4日(水)15:00～17:30
場 所：早稲田大学教育学部16号館10階1029室
出席者：及川輝樹、大石雅之、奥田昌明、工藤雄一郎、竹下欣宏、宮地良典各委員、久保純子(庶務幹事)、中川庸幸(日本第四紀学会事務局)

1. 概要説明

選挙管理委員会の仕事内容と大まかな日程について庶務幹事の久保と事務局の中川より説明があった。

2. 委員長選出

役員選挙規定 第8条に基づき委員の互選により及川輝樹委員を委員長に選出した。

3. 選挙日程の確定

2007 - 08年度の評議員および役員選挙の日程を以下のように決定した。

2007年4月4日(水)第1回選挙管理委員会

2007年4月25日(金)評議員選挙投票用紙発送

2007年5月25日(金)評議員選挙投票締切(消印有効)

2007年6月2日(土)第2回選挙管理委員会
(評議員選挙開票、役員選挙の会告と投票用紙の作成)

2007年6月4日(月)評議員への委嘱状発送

2007年6月11日(月)役員選挙投票用紙発送

2007年6月25日(月)役員選挙投票締切(消印有効)

2007年6月30日(土)第3回選挙管理委員会
(役員選挙開票、答申作成)

2007年7月2日(月)会長、副会長、会計監査、幹事への委嘱状発送

4. 多年度会費滞納者の取扱いについて

委員会で議論した結果、多年度会費滞納者にも選挙権・被選挙権を与えることにした。選挙権・被選挙権は会員の権利であるので、会員である以上選挙権・被選挙権を与えるべきとの声が多かった。会費滞納を理由で選挙権・被選挙権を与えない場合は会則ないし選挙規定で定めるべきであり、その基準などについては幹事会等で議論していただきたいという意見が多くでた。

5. 被選挙人名簿確認

会則9条および10条により、被選挙権を有しない正会員を確認した。会長経験者は、熊井久雄(地質)、町田 洋(地理)連続5選評議員は、上杉 陽、奥村晃史(以上地理)、斎藤文紀、竹村恵二、福沢仁之(以上地質)小田静夫(考古)、松浦秀治(人類)、宮武頼夫(動物)の以上10名である。被選挙人名簿から、これら会長経験者および連続5選評議員を削除して、被選挙人名簿の原稿を作成した。

6. 分野別評議員数の決定

2007年2月1日現在の選挙人名簿に基づき、専門分野別に会員数を算定した。地質学662,地理学466,古生物学124,動物学15,植物学42,土壌学31,人類学17,考古学202,地球物理学31,地球化学26,工学29である。専門分野別会員数に基づき、選挙規定第14条および16条により、分野別評議員数は、地質学9,地理学7,古生物学4,動物学2,植物学2,土壌学2,人類学2,考古学5,地球物理学2,地球化学2,工学2および共通分野5の計44名と決定した。

7. 投票用紙と会告の作成

前回の評議員選挙の実施に関する会告をもとに原稿を作成した。投票率向上と無効票減少のため投票用紙に「空欄があっても記名ぶんの投票は有効です。すべての欄をうめる必要はありません。」と「投票用紙に署名捺印した場合はすべて無効です。」の二文を入れることとした。

8. 投票率を上げるための方法について

学会のメーリングリストを通じて、投票の呼びかけを行うことにした。また地球惑星連合大会の第四紀セッションにおいても投票の呼びかけを行なうよう座長にお願いすることとした。

9. 開票時のアルバイトの確保

前回同様7名程度のアルバイトを確保する。首都大から2～3名、早稲田大から4名程度アルバイトを募集する。

10. 次回委員会の開催日

日時：2007年6月2日(土)10時より

場所：早稲田大学教育学部16号館1029号室

2006年度第7回幹事会議事録

日 時：2007年3月8日(木)14:00～18:00

会 場：早稲田大学教育学部社会科資料室

出席者：町田 洋(会長)、真野勝友(副会長)、斎藤文紀、池原 研、岡崎浩子、鈴木毅彦、水野清秀、中川庸幸、久保純子(記録)

(議事)

1. 庶務

(報告)

・11月19日～11月24日開催予定の国際シンポジウム「アジア・西太平洋の第四紀」に対し、IYPE国内委員会より協賛の許可を受けた

・上記シンポジウムファーストサーキュラーの回覧

・第1回選挙管理委員会は日程調整中

・学会賞最終案は通信次号に掲載する

・学会会議アンケート

(審議)

- ・評議員会議事録確認(通信4号)
- ・転載許可
春成秀爾、第四紀研究40巻6号(2001年)の図5を、『大磯町史10 別編 考古』へ転載

2. 会計
(なし)

3. 編集
(報告)

1) 第四紀研究編集状況

- ・今年に入ってからからの投稿が非常に少ない
- ・INQUA むけ50周年特集号の状況
- ・J-STAGE 進捗状況: 書類送付済、先方での作業中、ヘッダーレイアウトの決定

(審議)

- ・45巻(2006)掲載論文の著作権等譲渡同意書の回収方法: 一括して事務局から請求することをお願いする
- ・INQUA むけ50周年特集号のCD作成の件
- ・電子ジャーナルJ-STAGEは、1年間非会員へは非公開、課金なしで対応(評議員会決定)
- ・国立情報学研究所学術機関リポジトリに関し幹事会で検討する

4. 広報

- ・第四紀通信14-2の編集
- ・第四紀学会ホームページにて“だいよんきQ&A”の本格的運営を開始した
- ・50周年記念国際シンポジウムの記事を第四紀学会ホームページに掲載した

5. 行事

- ・2007年大会の準備と案内
8月31日(金)~9月2日(日), 神戸大学シンポジウム「瀬戸内海の変遷 - 自然・環境・人」巡検 9月3日(月)~4日(火)の予定
発表の申し込み締め切り: 2007年6月15日(金)
- ・日本地球惑星科学連合2007年大会プログラム
5月19日(土)~24日(木)、幕張メッセ国際会議場

6. 渉外
(なし)

7. 企画

・シンポジウム「自然史研究におけるフィールドの活用と保全」報告

2月3日(土)午後: 日本大学文理学部

講演者: 小泉武栄・田村糸子・渡辺真人・桂 雄三・中塚隆雄

参加者: 約80名

・シンポジウム資料集販売は、送料込み500円とする

・第11回講習会「火山灰層を用いた調査法・分析法」報告

1月27日(土)・28日(日) 大津市堅田丘陵および琵琶湖博物館

講師: 里口保文・水野清秀

受講者: 16名

・第12回講習会「貝化石群集を用いた古環境の復元法」(3月10-11日) 準備状況

8. 50周年事業実行委員会関連

- ・賛助会員に寄付を依頼する
- ・国際シンポジウムにたいし日本学術会議の後援依頼をするかどうかの検討をした
- ・兵頭幹事、岡崎幹事が50周年委員会に加わるようになった
- ・記念CD出版販売の件

9. 知的財産権等検討委員会関連

幹事会と一緒に議論すべき問題が増えたため、幹事会との合同開催などが打診、議論された

次回幹事会は4月28日(土) 早稲田大学にて開催の予定

2006年度第8回幹事会議事録

日 時: 2007年4月28日(土) 13:00 ~ 17:00

会 場: 早稲田大学教育学部社会科資料室

出席者: 町田 洋(会長)、真野勝友(副会長)、斎藤文紀、岡崎浩子、奥村晃史、遠藤邦彦、兵頭政幸、中川庸幸、小谷原一雄(春恒社)、上杉 陽(知財検討委員長)、久保純子

(議事)

議事に先立ち、知的財産権等検討委員会上杉委員長より、以下の検討内容について幹事会への説明があった。

- 1) 常設法務委員会設置と会員の除名について
- 2) 講演要旨集の査読制導入と講演論文集化
- 3) 会則の改定

1. 庶務

(報告)

・会員名簿作成のための調査用紙発送、広告掲載に関する案内の件

・賛助会員への50周年募金依頼もおこなう

・国際シンポ科研費補助金(研究成果公開促進費)は不採択

・研究委員会はINQUA終了後にINQUAの研究委員会設置を待って、次期で新規募集することにした

(審議)

・第51回粘土科学討論会共催の件(持ち回りで承認)

・転載許可の件(持ち回りで承認): 井上公夫・向山 栄『地形図判読演習帳』(古今書院)へ田中(2000)第四紀研究39巻の図と表転載承認

・地質学会大会におけるシンポジウム「沖積層研究の新展開 - 地質学と土木工学・地震防災との連携 - 」の共催を承認

・群馬県立自然史博物館企画展「アイスエイジ 氷

河時代を生きた動物たち」の後援を承認

- ・「日本の地質百選」選定に協力する
- ・会費長期滞納者について次回の幹事会で対策を検討することになった

2. 会計

(なし)

3. 編集

(報告)

- ・第四紀研究編集状況
- ・依頼があった第四紀研究掲載論文の著者へのpdf配布は、行わないことになった

(審議)

- ・19年度JSTアーカイブ調査に応募する

4. 渉外

・「地質の日」提唱の共同発起人会参加依頼があり、第四紀学会として参加することとし、斎藤幹事長を実行委員として推薦することとした

5. 行事

・神戸大会のシンポジウム・普及講演会等の内容について、開催校の兵頭幹事より説明

6. 広報

- ・「第四紀通信」次号原稿について報告・依頼

7. 企画(書面による報告)

・2月3日のシンポジウム「自然史研究におけるフィールドの活用と保全」の特集を「地質ニュース」に掲載することとし、原稿執筆中

・3月10-11日に行った第12回講習会「貝化石群集を用いた古環境の復元法」の報告

8. 論文賞・奨励賞選考委員会報告(幹事長)

委員の互選により、山崎晴雄委員が委員長に選出された。3月末までに2件の推薦があり、これらを合わせて委員会で選考をおこなう

9. 選挙管理委員会報告(庶務幹事)

委員の互選により、及川輝樹委員が委員長に選出された。評議員選挙投票用紙は発送済み、投票締切は5月25日、開票は6月2日の予定。役員選挙は6月30日に開票の予定

10. 創立50周年記念事業実行委員会報告(幹事長)

当日午前中に開催、募金の状況、国際シンポジウムの準備、記念CD出版の状況など

11. 学術会議報告(奥村幹事)

・INQUAへの代表派遣は、斎藤文紀・熊井久夫両代表2名が認められた

・2015年のINQUA招致の有無について

12. 知的財産権等検討委員会上杉委員長報告内容に関する件

上杉委員長からの中間報告に関して議論を行っ

た。議論結果を地財委員会に返し、更に双方で議論することになった

次回幹事会は6月30日(土) 早稲田大学にて開催の予定。

第四紀通信に情報をお寄せ下さい

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。
広報幹事：兵頭政幸(mhyodo@kobe-u.ac.jp)宛にメールでお送り下さい。
第四紀通信は奇数月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようになっていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 神戸大学内海域環境教育研究センター 兵頭政幸
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 電話 078-803-5734 Fax 078-803-5757
広報委員：松下まり子・後藤秀昭 編集書記：岩本容子

第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr>から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。